



# AJU 愛実

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務局
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所  
(大地の家／愛実友だちの家／紙風船)

## 第11号 会報

定価：一部50円

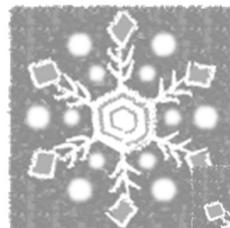


理事長 島しづ子より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1  
 事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2  
 愛実友だちの家のページ・・・・・・・・・・・・・・・・P3～4  
 大地の家のページ・・・・・・・・・・・・・・・・P5～6  
 紙風船のページ・・・・・・・・・・・・・・・・P7～10  
 「スローライフ と まいでい教育」／南 寿樹・・・・P11  
 寄付者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・P12  
 定例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・P13～14

### 大地の家 「荒子川公園でお散歩」



### 紙風船 「道徳公園でスポーツ」



### 愛実友だちの家 「小春日和」

## 「聴くということ」

島しづ子

今年も愛実の会をお支え下さりありがとうございました。  
新しい年もよろしく願い致します。

まだメンバーたちが養護学校卒業後、通う場所が全く無かったころ、行き場所を作りたいと願い、親たちでたくさんの施設や作業所を見学させて頂きました。新規の作業所はどこも間借りで狭い場所を窮屈に、しかし希望に溢れて活動していました。

その中で一番忘れられない出来事は名古屋市昭和区にある、AJU 自立の家を見学した時のことでした。山田昭義さんがまず言われたのです。「お母さんたち、『親が安心して預けられる施設』って、どういうところか知っていますか？成人しても門限が早く、男女交際は禁止、自由も無く管理されるばかり。そんな場所を作られたら子どもは迷惑ですよ。」「が～ん」

施設作りも大変なのに、作っても子どもにとって嬉しくない場所だったら、意味が無い。それから試行錯誤。まず、言葉を駆使できない彼らの声をちゃんと聞けるように少人数で。彼らの話を聞くために、時間をかけて朝の会を持つ。この観点から一施設5人規模。それは自己主張のしにくいメンバーに理想的だと思いました。ほどなくして名古屋市が重度心身障害児通所援護事業をはじめてくれた（親たちの積極的な働きかけで）ので補助金をもらえることになりました。一箇所年間990万円ぐらいの補助金でした。

今から思うと、贅沢なことでしたが、半日かけて朝の会をし、メンバーもアシスタントも輪になって順番に挨拶、日々のことなど聴き合って、楽しい時間を過ごしました。その時間を通してメンバーに様々な好みがあり、自己主張していることを知りました。そして年月が経ったとき、メンバーそれぞれが言葉を駆使しないけれど、独自のコミュニケーション手段を持って自己主張していること、家族やアシスタントへの思いやりを持って接していることを知らされてきました。

次第に愛実の会も成長し、少人数のよさは、どうしたら持続できるだろうか課題です。今、児童養護施設でも小舎制というのか、施設を分散して家族単位のような少人数で住む形が主流です。人間は一緒に過ごす人数が多ければ多いほど他者が気になるし、疲れます。愛実の会はもともと大規模拡大路線ではありませんが、現行の国の制度のもとではある程度の規模が必須です。またありがたいことに、愛実の会を利用したいという方が増えています。今までのように、紙風船・大地の家・愛実友だちの家の独自性を尊重しあいながら、できるだけ少人数の取り組みを継続したいと願います。幸い、現場のアシスタント達は従来の愛実の会のよさを理解し、守ろうとしてくれているので嬉しいです。

愛実の会では職員を「アシスタント」と呼んでいます。これも管理的にならないため、主人公であるメンバー中心の施設運営を心がけて行きたいという願いからです。

今まで活動の拠点として使わせていただいた大地の家も引越しを余儀なくされています。今、三拠点を一箇所にする事ができる場所が借りられそうです。そうであればいっそうメンバーに喜ばれる施設運営を心がけたいと決心を新たにする次第です。



## 障害福祉を良くする 名古屋市民集会に参加して

まだ秋の陽気だった 11 月 16 日(月)午後に行われた「障害福祉を良くする 名古屋市民集会」に参加しました。

この集会は名古屋市が減税に伴う収入減により予算削減となり、生活に必要な医療教育福祉の分野でも削減が具体的に検討されている情報があり、しかし医療教育福祉の分野を削減されては実際の生活上大変困ることになるので、ぜひやめて欲しい、削減というなら他に見直すべきところが少なからずあるのではないかと、という思いで実施されました。

この日、お昼前に名城東公園に集合し、短い集会の後、栄までデモ行進しました。栄ではみんなで歌を歌い、アピールを採択し、シュプレヒコールをもって終わりました。日中はわりと暖かい日で集会・デモをするにはちょうど良い日となりました。

多くの名古屋市内の障害者団体・障害福祉事業所が参加し、参加者は約 600 人とのことでした。

国政では今年夏に政権交代が実現し、厚生労働大臣が障害者自立支援法の廃止を宣言し、かなり明るさが見えてきたかな、という感じもありますが、今度は自分たちの自治体で大変なことになったという感じです。国も地方も両者とも医療教育福祉の充実が図られるよう、それに伴い障害福祉が豊かになるよう願いつつ活動していきたいと思っています。

中森 由哉

### 「小窓から」 6

大野義徳

不思議な体験をした。ふだん利用している電車で、遠く離れた始発駅から所用で乗った時のことだ。初めて訪れた始発駅。走り出した車窓の風景もみな新鮮だ。1 時間ほど走ると、よく利用する見慣れた駅に着く。そこからは駅舎も風景もよく知った所、のはずだった。でもそうではなかった。いつもの光景、混み具合なのに、だ。

いつもの駅、はるばる始発駅から 1 時間かけてやって来た電車。そのことを知ったからか、その電車がいつもと違って見えた。「ふだん私が乗る前に、この電車はこんな旅をしていたのか。」そんな思いが見方を変えたのだろう。

私が電車に乗る時、先頭車両に掲げている「行先」の表示だけを気にしていた。行先、が重要な情報だった。しかし、「どこから来たのか」という見えない情報の方が、じつはもっと大切な事柄を含んでいたのではなかったか。

これは人でもそうなのではないか、と思う。愛実のメンバーは、高校を卒業してからやってくる。私たちは、そのメンバーの現状を親御さんから聞き、自分の目でも確かめ、メンバーに接していく。将来をどうしていきたいのかを一緒に考える。

けれど、「今までどのような人生を送ってきたのだろう」「今日、出会うまでに、家でどのように過ごしていたのかな」という過去(あるいは歴史)に思いを馳せることが、その人となりをより深く受け止めるきっかけになるのではないだろうか。将来への展望もより開けてこよう。

古きをたずねて新しきを知る、学生の頃は、ややもすると退屈に感じたこの言葉が、だんだん重みを増してくるのを感じる。



インフルエンザの蔓延で遠足も紅葉狩りもおあずけとなりましたが、近場のお散歩や季節感のある行事で、メンバーに楽しんでいただけるよう工夫しています。作品作りに励んできた福祉フェスタも、残念ながらメンバーの参加は見合わせていただきましたが、あみとも特製フェルトボールとマグネットクリップはおかげさまで大好評でした。では、メンバーの写真を紹介しながら、愛実友だちの家、秋の模様をお伝えしたいと思います。

## 防災センターに行きました

9/1は防災の日。

毎年愛実友だちの家では、この日をきっかけに防災用品を見直したり、避難経路を確認したり、メンバーとともに、万が一のことがあったら、を考える時間を取るようになっています。

今年は、防災センターに地震体験に行ってみようということになりいざセンターへいってみると、丁度伊勢湾台風から50周年ということで、伊勢湾台風の被害に関する展示や台風に対してできることの講義、台風の体験コーナーがあったので参加して来ましたよ。

まず地震体験では、係のお姉さんに地震が来たらどうしたら良いかを聞いてからいざ体験コーナーへ。

メンバーとともにわくわくしながらスタンバイしていると、ガタン、ガタン、と全体が揺れ出して、ほどなくして地球がひっくり返るほどの揺れが!!

早く机の下に避難しなければ、と焦るアシスタントを尻目に、なんとなく揺れを楽しんでいる様子 of メンバー.....

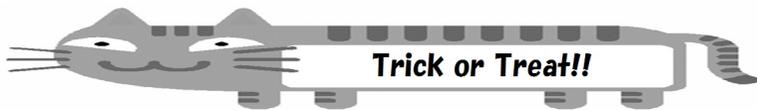
揺れが落ち着いたら、避難経路を確保して、火の元の確認をしなければいけないのに、揺れがおさまったらなんだかほっとしてしまっって.....なんとも頼りないアシスタントですみません。

その後、エレベータで2階に上がり、伊勢湾台風の被害と台風への対策についてのお話を聞いてから、台風体験コーナーへ。

こちらでは伊勢湾台風当時の民家の中で伊勢湾台風そのものを3D映像で疑似体験できるそうで、これまたあぶない刑事のように3D用のサングラスをかけて期待度100%☆ところが実際の伊勢湾台風はやっぱり怖い!!

風の音がビュービューゴーゴーしたと思ったら、雨が風でうねって.....高潮に見舞われたら人間の力で防げるものは何もないという感じで状況に身を任せる以外ないというくらいの怖い体験でした。





## Trick or Treat!!

ここ数年、日本でもハロウィンをお祭気分楽しむ人が増えて来ましたね。

愛実でも去年からハロウィンを季節のお祭とらえて楽しむようになりましたが。

そんなハロウィンですが、もともとはケルト人の1年の終りが10月31日で、この夜は死者の霊が家族を訪ねたり、精霊や魔女が出てくると信じられていたため、これらから身を守る為に仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いていたのが始まりとされています。

また、家族の墓地にお参りし、そこで蝋燭をつけるという地方もあり、墓地全体が、大きなランタンのように明々と輝くそうです。まるで日本のお盆の迎え火・送り火のようですね。

そんなハロウィンですが、今では多くの地域で10月31日の夜、カボチャ(本来はカブ)をくりぬいた中に蝋燭を立てて「ジャック・オー・ランタン」を作り、魔女やお化けに仮装した子供達が「トリック・オア・トリート(Trick or treat. お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ)」と唱えて近くの家を1軒ずつ訪ねるのが慣わしになっています。



愛実友だちの家では今年、風船に新聞紙と和紙を張り合わせてつくった張り子モンスターで部屋を飾り、当日はカボチャやこもり、おばけの型抜きをしたクッキーを作ってお祭り騒ぎ。いつもと違った雰囲気を目を白黒させるメンバーもいましたが、楽しい気分を味わうことができました。



## 福祉フェスタ無事終了しました☆



毎年秋に熱田の生涯学習センターで開催されている『あつたあつたかフェスタ』。今年は所を替えて熱田区社会福祉協議会で開催されました。今年は商品として、みんなが作りやすいフェルトボールとマグネットクリップを出品。

フェルトボールは春からせつせと羊毛フェルトを専用のシェイカーで作り夏過ぎからはそれをもとにはらぺこあおむしをモチーフにしたストラップやお花のヘアアクセサリなどに成型し商品化していった力作ばかり。基本はボール=球なので、果たしてそれをどんな風に形作っていくかはメンバーとアシスタントのアイディア次第。

球を生かしたこやきやアイスクリームをイメージしたものは男の子に人気で、はらぺこあおむしはママさん世代に、スイーツや動物モチーフのものは女の子に人気で売れ行き上々でしたよ。

また、木のピンチにマグネットを貼り付け、メンバーがペイントしたマグネットクリップは、『冷蔵庫にメモを貼り付けるのに便利』と大変好評であつたという間に売切れてしまいました。

去年までより売り場が狭く、お客さんには人混みをかき分け6階まで上がってきてもらう必要があつたので、客足がどうか心配でしたが、それなりに盛況でした。

インフルエンザの流行を懸念してメンバーが販売に参加することはできませんでしたが、自分たちが作ったものがどんなふうに評価され、取引されていったかを伝えたことで、それぞれ満足感があつたようです。

来年も参加できるかはまだわかりませんが、フェルトボールの作製はメンバーのお気に入りなので、また何かの形で作品をご披露できればと思っています。

ボクはお気に入りだった  
はらぺこあおむしのストラップ  
買いに行ったんだよ



# 大地の家のページ

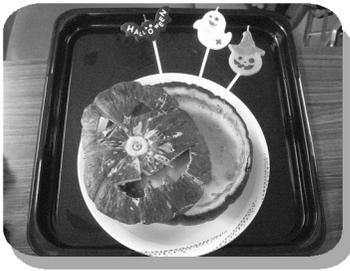
(P5~6)

## ハロウィンパーティー

今年も大地の家ではささやかながらハロウィンパーティーを行いました♪

昨年はおやつに盛り上がりましたが、今年は仮装に力を入れてみました。

せっせと前の週から頑張っって衣装作りに取り組み、女性メンバーはカチューシャに悪魔の耳や黒猫の耳を付け、お化けの中でもかわいらしいイメージの衣装を作りました。普段なかなか付ける機会のないカチューシャを気に入ってずっと付けてるメンバー



↑まるごとかぼちゃのチーズケーキ

もいれば、頭の違和感に怪訝な顔のメンバーもいて、反応は様々でした。

一方男性メンバーが取り組んだのは魔法使いの帽子作りです。型紙もなく一から作ったのでなかなか難しく、悪戦苦闘…。活動時間を過ぎて作業にのめりこむメンバー&アシスタントが続出でした。少々いびつな仕上がりとなってしまいましたが、それはそれぞれおどろおどろしい雰囲気が出ていたように思います。

そしてハロウィン当日には、中身をくりぬいたかぼちゃを丸ごと器に使った『まるごとかぼちゃのチーズケーキ』作りも行いました。

ジャック・オー・ランタン風に形どって見たものの、顔が裂けてしまったりするなどトラブル続出でした…。

いつもながら反省点は多かったです。みんなでわいわい騒ぎながらのケーキ作りはなかなか楽しい時間でした(^^\*)

そして午後のティータイムには、手作り衣装を身にまとった大地の甘党お化けたちは「Trick or Treat!」と言わんばかりにペロリと召し上がっていました。

メンバーだけでなくアシスタントもハロウィンには馴染みが薄かったため、模索しながらのパーティーとなりましたが、少しでもメンバーにハロウィンの楽しい雰囲気を感じてもらえていたら嬉しいなあ…と思います♪



## あったかあつた福祉フェスタ

すでに会報でも何度かお知らせしていましたが、『あったかあつた福祉フェスタ』が11月15日(日)に熱田区役所にて催されました。

愛実の会からは、大地の家と愛実友だちの家が共同で自主製品販売コーナーに出店いたしました。

当日は、新型インフルエンザの影響もあり、アシスタントのみの参加となりました。

これまでに大地の家では、「アクリルたわし」「絞り染めタオル」「廃油せっけん」などをメンバー、アシスタント共に協力して作ってきました。実際には販売の場面にメンバーが関わることはできませんでしたが、販売に携わったアシスタントはメンバーの気持ちを胸に、必死に販売を行いました。



当日のお客さんの入りはますますといった所だったでしょうか。

しかし、昨年と会場が変わり販売コーナーは隔離されたような状況だったので、なかなかお客さんはやってきませんでした。必死に呼び込みをやってみたり、お客さんを捕まえては説明をしたり…その時のアシスタントの表情はにこやかながらも真剣そのものだったように思います。

メンバーと共に頑張って製作してきた商品、売り上げをお給料という形では還元できないけれど、みんな

で美味しいものを食べに出かけよう！という思いが通じたのか…当日はほぼ完売に近いくらいの売り上げを得ることができました。

一日立ちっぱなしで販売をする事は決して楽なことではありませんでしたが、メンバーと共に作り上げてきた物が一つ一つ買われていくことはとても嬉しいことでした。

どっと疲れもしましたが、それ以上に嬉しさを感じることでできた催しだったと思います。

今回の売り上げを基にみんなで美味しいものを食べに行こう！ということを目指に掲げてきましたので、近いうちに食事に行きたいと思います♪

## あったかあつた福祉フェスタにて

この会報をご覧頂いている方にも当日ご来場いただけたようでした。

普段なかなか接することはできませんが、このようなときにお顔をお見せいただき、大変ありがたく思いました。

翌年はどのような取組みを行うかまだ未定ではありますが、何かしら外での活動も行いたいと思いますので、その折にはまたお顔をお見せいただけるととても嬉しく思います。

当日は忙しくてなかなかご挨拶もできませんでしたが、この場にて改めて御礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。



# 紙風船のページ

(P7~10)

寒さが一段と増してきましたが、皆さま風邪などひいていませんか？紙風船は何とか恐れているインフルエンザにも誰もかからず、今年もみんな元気に紙風船に来ています。まだまだ気を許せない時期が続きますが、みんな笑顔で過ごせていることを幸せに感じます。

始めた理由は？

新作づくり

今年の1月から新しい作品づくりに取り組み始め、すでに1年がたとうとしています。今ある代表的な作品「モコちゃん」や「ポーちゃん」は大掛かりな作品の為、公演を行うにはたくさんの人数が必要となります。また舞台にも広いスペースが必要となってしまうという状況がありました。その為、これまでは平日の依頼や舞台スペースが確保できない依頼に関しては、お断りするしかありませんでした。そこで、平日の公演も出来るようにするため、もっと公演の幅を広げていくために新しい作品づくりに取り組むこととなりました。

「環境問題」「ありがとう」「友情」をテーマに3つのグループに分かれ作品を作っています！

どんな作品？



1年かけて、ようやく台本の基礎ができました。ここまで来るまでも、毎日毎日みんなで台本と向き合う日々で、アイデアが浮かばず思い悩んだり…生みの苦しみとはこういうものかと感じる毎日でした。そしてようやく12月の講座からは、実際にその台本をどのように表現していくかのデッサンに入っています。また、人形のからくりを作るため、メンバー1人ひとりがどのような操作が可能なのか。身体の状態を確認しながら一つひとつ自分たちで考えていく作業も同時に行っています。

これからの予定

この新しい作品の初演は来年秋になります。4月までにデッサンを終え、それから稽古に入っていく予定です。まだまだこれからが大変だと思いますが、不安と期待を胸に、何とかこの作品を皆さんのもとに届けられるよう、みんなで頑張っていますので、応援よろしくお願い致します。またいろいろと続けてご報告していきますので楽しみに～★



## リラックス&表現活動

毎月、月に数回各アシスタントが担当してアロマやお菓子作りなどをリラックスの時間に行っています。今回は、みんなで空と葉っぱのある一つの大きな絵の上にもろんな虫たちに自由に色をつけ、大きな一枚の絵を仕上げてみました。きれいな色が皆さんにお届けできないのが残念なほど、とても幻想的な仕上がりでみんな大満足でした！

またこれからは、地域のボランティアさんと呼びかけをし、リラックスの時間に音楽やマジックなども様々なことを取り入れていきたいと思っています！



おもちゃの  
ちゃちゃちゃ♪



表現活動では、表現することの楽しさや、相手に伝える色々な表現方法、またイメージしたものを絵や身体で表現するなどの取り組みを行っています。

今回は、公演も近かったので、人形劇の中で楽しく歌が歌えるように、笑顔で演技が出来るように、歌に合わせてふりを付けたり、楽器を使うなど楽しい気持ちをみんなで共有しあいました！みんなとても楽しそうに身体を動かしたり歌ったり、一日のほんのひと時の時期でしたが、なんだかみんなの心が一つになったように感じました！まずは自分たちが楽しむ！このことを心がけて、これからも色々な表現にチャレンジしていきたいと思っています！

### 【あとがき】

2009年も、あと少しで終わりですね。どんな一年でしたか？施設では新作づくりがスタートして、とても充実した年でした。年末にかけて忙しいとは思いますが、体には気を付けてください。来年もよろしくお祈りします。

田中 良枝

## <メンバーの想い>

「紙風船に入って」

成瀬 早紀

紙風船に入った時は、皆とやっていけるかなって心配だったけど、今になってみれば、皆とうまくやっていけてると思います。

今までは話し合いとかは、嫌いだったけど、紙風船に入って話し合いも大事なんだって思うようになりました。

人形劇を見ていたときは、すごいなと思いました。実際に自分でやってみて、初めは大変だったけど、今になって人形劇は楽しいなって思えるようになりました。

これからもがんばっていきたいと思います！



## <協力者の想い>

「でこぼこ」

佐藤 慧

僕が愛実の会にお世話になって2年目となりますが、メンバーのみんなと過ごしていると飽きることがありません。みんなそれぞれにツッコミどころ満載なのですが、本人たちは何食わぬ顔でしれっと「けい君は変わってるねえ」なんて言います。

自分を出せるということは、その人が皆に受け入れられているか、踏んづけられても出てきてしまうか、どちらかだと思います。いえ、たぶん両方なんですね。何度踏んづけられても出てきちゃうと、もう皆「ああ、こういうやつなんだ、しょうがねえな」って納得しちゃう(笑)

せっかくみんなおもしろいところを持ち続けているんだし、そういう部分をもっともっと開放していったら、すごくおもしろくなっていくんじゃないかと勝手にわくわくしています。みんなの自由な部分を人形劇に反映していけたら、「ぼくたちはこういうことやってるんだよ!」と、それがメッセージになっていくんじゃないかと思っています。あー、楽しみだ!

## 【公演だよ！】

第117回 2009年11月21日(土) らいぶ・ゆう公演

主催：中村区役所 運営：社会福祉法人あさみどりの会

協力：特定非営利活動法人ひょうたんカフェ・同朋大学手嶋研究室

同朋大学 Doプラザ関蔵にて 18：00より 「モコちゃん」

同朋大学にて公演を行いました。

8月の静岡公演以来であったこと、また今回は久しぶりの夜の公演でもあり、何だか少しそわそわした様子がありました。しかし新しいボランティアさんが初めて一緒に公演に参加することもあり、みんな気合をいれ本番に臨みました！

今回の公演では学生さんをはじめ、たくさんの方々に協力していただきました。人形劇を通して、あらたな出会い・つながりができたこと嬉しかったです。また見てくれた方たちからも笑いが多くとても私たちも楽しく人形劇を演じることができました。ありがとうございました。

### たくさんの感想を頂きました！

観客参加型だったことに驚きましたが、一緒に歌うことで、一緒にやっている気分にもなれてより楽しめました！

1人ひとりがプロ意識をもってそれぞれの役割に徹している姿が素晴らしいと思いました。

精一杯生きている、伝えている、とても生き生きとしていて驚きました。

皆さんの笑顔、とても楽しそうな笑顔に感動しました！

一つ一つがとても細かくてすごいと思いました。見ていて自然と笑顔になってしまうくらい楽しく観させてもらいました！

他にもたくさんの感想をいただきました。皆さんの温かい言葉を励みにこれからもがんばります！  
ありがとうございました。



### 【公演依頼募集中】

地域のイベント等、何か機会がありましたらぜひ声をかけてください！



# スローライフ と ままでい教育

南 寿 樹

「学校から帰ってから1時間はわたしの『まったり時間』。何をやるわけではなくまったりするの」紗季さんが教えてくれました。(贅沢だな～) 私はというと、いつも何かにせき立てられるように忙しく、心は意味なく焦っていて、目の前で信号が赤に変わるだけでイライラしてしまう・・・(情けない)

さて「ままでい」と言う言葉のニュアンスはこの「まったり」の言葉にも通じます。その語源は、「真手」「諸手」。「ままでいに」となると「両手で」「丁寧に」「心を込めて」という意味になります。

福島県飯舘村の「飯舘村第5次総合振興計画 “大いなる田舎ままでいライフいいだて” (2004年) という村づくりのキーワードに使われています。

教育長の廣瀬要人氏がこの村の「ままでい教育」について講演をしてくれました。この村は人口約六千人の過疎の村。「効率と速さ」を求めてきた今までの生活を見直し、背丈にあったスローライフの理念で、美しく、心安らぐ、笑顔あふれる村づくりをめざしました。

「貧しい生活をしているのにスローライフとは何事か！」と当初は反発もありましたが、5つの「ままでい宣言」を実行するうちに、村はみるみる元気になったということです。

① 人と地域のつながりをままでいに ② からだと大地をままでいに ③ 家族の絆をままでいに  
④ 食と農をままでいに ⑤ ひとづくりをままでいに・・・ その中でままでい教育は生まれたようです。その教育を廣瀬氏は「子どもたちのできなさのあらを探すのではなく、持っている宝を探していこう」(宝探しの教育)「できるようになったことをどんどん評価していこう」(加点法の教育)と表現します。通知票をこれまでの「競争原理で人と比べる」(相対評価)から「自分の中でどれだけ変わったか」(絶対評価)へ変えました。そして全国でも珍しい【やったね！事業】と呼ばれるものを考え出します。これは村の予算70万円を子どもたちに与え、自分たちで事業を企画、運営させるというものです。ここには「自己存在感を与える」「自己決定を促す」「人間的ふれあいを基盤とする」という思いがあります。昨年度はコンサートを実施し大変感動的な場面になり大きな達成感が得られたそうです。

また年間予算427万円の【アドベンチャースクール事業】もユニークです。これは、村にある3つの小学校の6年生を北海道に4泊5日の研修に行かせ「外から飯舘村を見てみよう」「学校の枠をはずし相互理解をし、北海道の子どもたちとも交流して豊かな人間関係をつくろう」という事業です。船に2泊、ホテルに2泊と村の経済力に似合わない贅沢な事業です。

子どもたちの生き生きとしたたくましい姿が浮かんできます。村の人がどれだけ子どもたちを、丁寧に心を込めて愛して育てているかに心を打たれます。

私は自分を振り返ってみました。——「しっかり生徒を受け止め、じっくりと生徒たちの悩みに向き合っているか」「実践(授業作り)もやっつけ仕事でしていないか」「そもそも丁寧に生きているか」・・・

広瀬教育長は言います。「環境は人を作る。最も重要な環境は、情熱的で子どもに自信と夢と勇気を与える明朗公正で包容力のある人間性豊かな指導者。子どもは信頼できるもののみ心を開きます」私もそんな「子どもたちの良き環境」になりたいと強く思います。そこで、心の中で誓いました。

**ままでいに(ゆっくり丁寧に心を込めて)生きていこう！本当に大切なものを見失わないために！**

**NPO 愛実の会 寄付者名(順不同・敬称略)**

2009年9月1日～11月30日

□賛助会費/NPO 愛実の会の活動に対する費用

細川美代子 早川教示 戸軽佳代 今井謙吾 前田栄子 風間文子 小出朋子 木村睦子

□土地建物/将来の NPO 土地建物取得費用

早川教示 戸軽佳代 中森由哉 金田好美 風間文子

□紙風船夢づくり/紙風船の人形劇製作、公演活動に関する費用

早川教示 戸軽佳代 中森由哉 佐藤仙務

□NPO 資金/NPO の運営に関する費用

中森照子 中森由哉 島しづ子 林 優華

□寄付・その他

清水茂雄 細川美代子 早川教示 岸野奈奈子 見木靖美 伊藤あつ子 木村 純  
安藤 晋 稲田喜水 田瀬教会 鈴木まりえ 飯田幸雄 日本福音ルーテル復活教会  
山中 高 在日大韓基督教会名古屋教会女性会

ご支援ありがとうございました。

**任意団体「障害者・友だちの会・愛実」寄付者名(順不同・敬称略)**

担当 長村秀勝

今年も皆様に支えられて活動を続けることが出来ました。有り難うございます。公園で幼い子供とお母さんが楽しそうに枯葉の小山を作っていました。初冬の陽だまりには、ほっこりとしたぬくもりがあります。

「寄付金個人・教会」大淵哲也 大淵真喜子 横井忠弘 彦根教会 小西直人 小西佳穂子  
松下智恵子 林久子 東中国キリスト者障害を共に担う会

「賛助会費個人」吉谷尚之(複数回) 笠谷恵子 大串まつ 小川澄三

「土地建物基金個人」岩田太万亀(複数回)

イエローレシートキャンペーン報告 (2009年3月～8月)



NPO法人愛実の会は、イオンで毎月11日に行われる「幸せの黄色いレシートキャンペーン」にジャスコ名古屋みなと店様・千種若宮大通り店様各店に3事業所、イオン大高店様に紙風船が登録させて頂きました。

このキャンペーンでは、お客様から集められたレシート合計金額の1%相当の商品を各団体に寄贈して頂きます。今回も日用品を始め、活動で活躍する卓上コンロなど様々な商品を頂きました。寄贈していただいた商品は大切に活用させて頂きます。本当にありがとうございます。また、9月からも各店舗継続して登録させて頂いています。なかなかインフルエンザ対策もあり、メンバーと店頭呼びかけに行くことができずとても残念ですが、今後とも皆様ご来店の際はご協力よろしくお願い致します。

## 第3回・第4回定例会報告

第3回定例会 2009年9月26日(土) 参加者22名 (正会員数 9月26日現在43名)

今回は前回の定例会までに出された課題を「①メンバーが安心できる生活」「②働きがいのある職場の実現」「③土地建物移転について」という3つのテーマにしぼり、より深めていくことを目標にグループディスカッション形式で進められました。

★ 各グループの報告より

① 現在のメンバーの生活、将来の生活でのホームヘルプの役割の大きさ、将来メンバーが安心して過ごせる場所、どうしたらメンバーにとって生きやすく過ごせるかなど柔軟に考えていく必要があることを確認。

② 仕事と生活の調和を大切に、ゆとりを持ちながら長く働けるような環境を作っていくことが必要。働きやすさ＝環境づくり+働きがい によって納得・安心・帰属できる職場を目指していく。職場への信頼感や仕事に誇りと連帯感が持てると、継続的に組織に貢献していけるようになるのではないかと。

③ 現状抱えている問題等を確認、今後の具体的な移転の方法を様々な角度から検討。また移転後の構想について考えていく中で、昼食・送迎・アシスタントの補充などの観点から一箇所集中という方向性も話し合われた。

第4回定例会 2009年11月28日(土) 参加者23名(陪席者2名含)

(正会員数 11月28日現在45名)

今回当初の予定では、前回に引き続き3つのテーマに沿ってより深めて協議を行っていく予定でしたが、今回土地建物に関しての緊急課題があがり、「土地建物移転」を今回の定例会のテーマといたしました。下記に詳しい経緯も含めご報告いたします。

### 各拠点の使いづらさ等の確認

- 大地の家／時間貸しのため 17:00 までしか使えず職員の勤務に支障をきたしている。  
また他の団体の方も使用することがあるため、備品管理や掃除が困難。  
通信環境の不備や活動場所の狭さ、これ以上の拡大利用は認められない。
- 紙 風 船／メンバーも増え建物内が全体的に狭く寒い。休憩スペースに限りがあり、メンバー全員が横になることができない。2 階のコンクリートに亀裂が入ってきていて今後の使用に不安がある。人形劇の練習場所の確保が難しい。
- 愛実友だちの家／建築 50 年以上経ち、随分と年季の入った建物なので、災害時等の不安が尽きない。冬は寒く、夏はかなり暑い。
- 全体に関して／現状では、スペースに余裕が無く新規メンバーの受け入れは困難。活動スペースの確保が必要。様々な方が利用する大地の家の厨房では、衛生面での心配が大きい。各事業所への配送時間との兼ね合いもあり、調理時間の短縮に迫られこれ以上の時間の短縮は困難。

## 移転計画に至るまで

### ■ 働く人の家(大地の家)について

厨房設備等の改修や新規購入等、17 時以降の使用、現状の空いているスペースを愛実友だちの家で使わせていただけないかと申し出をしたが、難しいとの回答をいただきました。

また現在働く人の家は様々な方の共有スペースでもあり、来年度からは働く人の家で、大地の家が今の様な活動を継続していくことが困難な状況も出てきたため、大地の家の移転が急務な課題としてあげられる事となりました。

### ■ 3 事業所の今後について

先述のとおり、現在または近い将来 3 事業所ともに移転の必要性が出てくるのは明確であります。また 3 事業所のうち順をおって移転したとしても、3 事業所点在による不具合は解消されません。まずは大地の家の移転を緊急の課題とし、同時に 3 箇所が一緒に移転できる場所に関しても念頭に入れ、物件探しにあたりました。

#### <3 事業所一体化のポイント>

メリット：ランニングコストの削減が可能(水道光熱費等の基本使用料の一元化等)  
給食配送、事務連絡等の省略、地域別の送迎計画が可能となる(送迎拡大・メンバーの乗車時間の短縮)  
将来的に社会福祉法人を目指すことの実現化(資産及び定期借地)等

デメリット：各事業所の小規模ならではの良さがなくなる可能性がある、人口密度の増加、各事業所から出る音の心配。ゆとりの減少、トイレの渋滞、駐車場の確保等

### ■ 物件が見つかりました

港区木場町にある築 22 年、平屋建ての物件を紹介

平屋の為、避難経路についての心配も少なく、広いスペースの確保が可能、また厨房施設が備わり、現在の運営場所からそれほど遠くなく、駐車場も複数台分確保されていました。

そこで定例会では様々な条件をふまえ、私たちの緊急な課題として 3 箇所の同時の移転に関しても具体的に考えていく事となりました。(12 月 6 日に物件の見学会を実施)

### ■ 移転の方向性を考える上で定例会で確認したこと

- ・ 会員以外の利用者やご家族、様々な方の思い・意見を聞いていくことが大切
- ・ 資金面での計画や図面の必要性
- ・ 1 箇所集中にしても、各事業所独自の特性を生かして活動を継続できるようにすることが大切
- ・ 今よりもより過ごしやすい環境になることが大前提であること など

※ 12月6日 物件の見学会・説明会を実施 12月23日 臨時総会開催

※ なお上記の移転内容に関しましては正式には 12 月 23 日(水)に開催される臨時総会によって協議されることとなります。



## 看護職員（パート）募集



勤務内容：生活介護事業所（通所サービス）における医療的ケア  
（胃ろうからの水分・栄養分注入・吸引・呼吸器等管理）と介護全般

募集人員：1名 随時採用

勤務時間：10：00～16：00を基準に応相談

勤務日：週2～3日（水曜日と土曜日を含む）

時給：准看護師 1,200円～/月 正看護師 1,300円～/月

ブランクがあってもオッケーです！

地域のなかでゆっくり時間をかけて利用者の方と関わってみませんか？

病院勤務とは違う何かが見つかるかも！

ぜひ興味のある方は一度見学に来てみてください！お待ちしております！

担当：中森（052-700-1120）

### 特定非営利活動法人愛実の会 事務局 居宅介護事業所 あみ

〒456-0034  
熱田区伝馬1-8-1-201  
TEL 052-700-1120  
FAX 052-700-2383  
e-mail npo-aminokai@s f .commufa.jp

### 大 地 の 家

〒456-0034  
熱田区伝馬2丁目28-14  
「名古屋働く人の家」内  
TEL 052-681-6488  
e-mail ami\_daichi01@yahoo.co.jp

### 紙 風 船

〒457-0845  
南区観音町5-109  
TEL/FAX 052-694-5458  
e-mail ami\_kamifuusen@yahoo.co.jp

### 愛 実 友 だ ち の 家

〒456-0057  
熱田区五番町18-29  
TEL/FAX 052-651-5953  
e-mail ami-tomo@na.commufa.jp

## 「NPO愛実の会」ご支援のお願い

郵便振替 座番号 00850-6-187490  
座名称 特定非営利活動法人 愛実の会

- ◆ 賛助会員 NPO愛実の会の活動に対しての費用
- ◆ 土地建物取得 将来のNPO土地建物取得費用
- ◆ 紙風船夢づくり 紙風船の人形製作費、公演活動に関する費用
- ◆ NPO資金 NPOの運営に関する費用

1□1,000円（NPO資金は1□3,000円）何□でも結構です。  
ご支援していただける項目を振込用紙に記載の上ご協力お願いいたします。

※ 年2回（夏号と冬号）に「振込料金加入者負担」の「払込用紙」を同封させていただいています。  
ご利用下さい。